

教科別研修講座報告

平成 30 年 7 月 6 日（金）

C411 中学校音楽科・高等学校芸術科音楽研修講座

「実践して学ぶ!!これからの歌唱に必要な資質・能力」

講師 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官

志民 一成 氏



〈内容の詳細〉

- 1 新学習指導要領で求められる歌唱とは？～資質・能力の視点から～（講義・演習）
 - ・教科の目標（中・高）が、資質・能力に合わせて改善されたこと
 - ・音楽的な見方・考え方をどう働かせるか、教師が働かせるように仕向けていくことの大切さ。また、何故「対話的」なのか
- 2 創意工夫を生かした表現で歌うために1～曲種に応じた発声・発音、技能の面から～（演習）
 - ・ハンドサインを用いて、相対的な音程感覚を育むことの意味
 - ・民謡での発声、裏声と表声（頭声と地声）の仕組み、「椰子の実」の教材性と歌い方研究
- 3 東京藝術大学派遣教諭研修報告（発表）
 - ・アウトリーチと吹奏楽研究を通して、「聴くこと」を音楽科としてどう育てていくか
- 4 創意工夫を生かした表現で歌うために2～豊かな表現を引き出すための楽曲分析と指揮法（演習）
 - ・指揮法ワークシートを用いて、打点がわかりにくい指揮の原因を分析
 - ・グループに分かれて教材曲を指揮。タイミング、強弱、速さなどを的確にグループ内に示し、伝わったかどうかをグループで評価し合う
- 5 今、求められる歌唱の資質・能力について考える（グループ協議）
 - ・発声指導、男女別やパート別の音程指導、変声期の指導など悩み共有、調査官からの御助言



〈受講者の声〉

- ・新学習指導要領について今一度、大切なポイントを確認できたので、授業づくりに活かしていきたいです。ハンドサインやアンザッツを取り入れながら、声について興味を持たせて生徒に探らせてみたいと思いました。
- ・指揮法・楽曲分析についてや、主体的・対話的で深い学びを、どう授業展開について取り入れていけば良いかが分かりました。iPad のアプリやカズーなど視覚化して使える活用法を知ることができて本当に良かったです。
- ・実践することで、改めて自分で感じるが多かったです。活動に目的があるのではなく、どう表現したいかという思いや意図を生徒にしっかり持たせてから実践することの大切さを知りました。教師自身がその教材に心を動かされていないといけないと思いました。